

身近に起こる土砂災害

岩沼西中学校 二年 針生 紗奈

土砂災害といえるものは何件ほど起きて  
いると思いますか。私は一年間で多くて  
五十件位ではないのかなと思います。しか  
し、調べてみると、二番多かったです。平成三十年  
度は約三千五百件も起こっていました。こん  
なに起こっているということはどこにでも  
土砂災害の危険性があるといえます。そんな  
土砂災害から身を守るにはどうすればいいの

でしょうが。

私が調べて出てきた土砂災害の好事例を  
挙げていきたいと思えます。

一つ目は、令和二年七月の大分県日田市の  
事例です。高齢者福祉施設の安寿苑の敷地内  
で、がけ崩れが発生した。施設は被害を受けた  
が、人的被害はなかった。この事例で注目す  
べきは、多くの高齢者が入所しているにもか  
かわらず、人的被害がなかったことです。そ  
の理由は、日頃から早期避難を習慣にしてい

たからです。約10年前から避難計画を策定し、多発する豪雨にしっかりと対応できるように備えていたからこそ、災害が起こる前に避難ができたのです。この事例は備えあれば憂いなしをまさに証明してくれたと思います。災害を身近に考え、対応できるように備える大切さを知りました。

二つ目は、令和二年七月の鹿児島県垂水市の事例です。土石流により、家や倉庫三棟が全壊したが、住民は事前に避難しており、人的被害はなかった。この事例で注目すべきは、被害にあった家の住民全員が事前に避難していたことです。この地域では住民間で、早め避難しよう、という認識を共有している。当日の避難行動につながったそうです。この事例は地域間で災害について確認し合うことの大切さを教えてくださいました。普段、あまりそういう話をしなからこそ、災害について近所の人などと確認し合ったり、新しい気づきがあったり、いざというとき役に立ち

たりするのだなと思いましたが。早め早めに行  
動する意識を持ち、災害が起きる前に避難を  
したりするといふのを身につけていきたいで  
す。

三つ目は、令和元年十月の宮城県丸森町五  
福谷地区の事例です。土砂や流木が地区一帯  
に流れ込んだが、人的被害はなかった。この  
地域では、大雨に危険を感じた人が呼びかけ  
をして避難を近所の人に指示し、多くの人が  
難を逃れたそうです。この事例は災害などが

起きたときほど周りを見る重要さを教えてく  
れました。災害といふ緊急事態のときこそ  
落ちついて、自分に余裕があれば他の人にも  
目を向けるといふのがいいのではないでしょ  
うか。また、自分がどうすればいいかわかう  
なかつたり、身動きがとれないときは他の人  
を頼ったりするのもよいのではないでしょ  
うか。地域全体で協力して、被害を最小限にす  
る意識を持ちたいと思います。

私の住んでいる地域で土砂災害が起こった

というのは聞いたことがなかった。あの、あまり身近に感じていませんでした。土砂災害のハザードマップを調べて見てみたところ、思ったよりも近くに大雨などが降ったとき危険な土砂災害警戒区域がありました。今回、土砂災害での好事例を調べてみて、しっかりとした備えをしていたり、地域で協力していたりして、被害をおさえた事例を知りました。今回学んだことを頭の中に置き、土砂災害を身近なものと考え、生活していきたいです。

また、今年も大雨により土砂災害が様々なところで起きています。たくさんの方が被害を受け大変な思いをしています。今の私にできることは、残念ながらありません。被災者が起きた時、ボランティアとして手伝いに行く人を新聞で読んだことがあります。困っている人を助けたいという思いで仕事を休んで遠くから手伝いに来て、一人もいません。被害を受けた人は、人々の優しさに涙を流していました。その記事を読み、支え合って生

きていくことの大切さを改めて感じることで  
できました。

自然災害はいつどこで起こるか分かりま  
せん。日頃の備えはもちろん行い、起きてし  
まった時にどのような行動していくべきか、  
自分にできることは何か、しっかりと考え  
ていきたいです。そしてどんな人にも役に立  
つような温かな人間になれるよう努力して  
いきたいです。